
鬼神が殺ってくる。ゲームプレイヤーズ

左藤ゆいむ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

鬼神が殺ってくる。ゲームプレイヤーズ

【Nコード】

N0195Q

【作者名】

左藤ゆいむ

【あらすじ】

冬休み中に部活で学校に行くと「鬼神」と言う仮面をつけた「やつ」

があらはれ今からゲームを始めると言われ・・・

第1ゲーム

1話「鬼神」

いつものように僕たちは彼をまっていた、僕の名前は上崎神慈かみざきしんじ。僕たちは学校のバドミントン部でいつも遅刻している彼をまっていた。

彼とは伊東祐次いとうゆうじである

今は冬休み、祐次は休みの日になるといつも遅れてやってくる。だからみんなこのあと何が起こるかなんて考えもしなかった・・・

「ガラガラー」

とドアの開く音がしたうちの学校の体育館はぼろいため

ガラガラーと音がなる

「お？ やつと来たか？ 祐次遅いぞっ」

と部長が怒って祐次のもとにかけよった、

「雪が降っていたのか？」

なぜかフードを深くかぶっていた。

外を見ると雪など降っていない

祐次は黙ったまま何も言わない・・・

部長が

「どうかしたのか？」

と聞いた。

すると祐次は小さい声でこう言った・・・

「1ゲームを始める・・・」

「は？」

その瞬間部長が倒れた・・・

「え？・・・」

部長を見ると血だらけで倒れていた。

「うあああああ」

祐次の顔を覗いてみると謎の仮面をかぶっていた。

「お・お前誰だ!?!」

「我が名は「鬼神」だ・・・」

そう言うのと奴は急にみんなの頭の中に話かけてきたのだ!

「な・なんだこれ?」

<学校に居る者に告ぐ、今から鬼神ごっこおする>

「鬼神ごっこ?なんだそりゃ?」

「鬼ごっこのこと?」

<ルールは簡単、今から2時間内に1人でも生きていればお前らの勝ち>

「なんだよそれ意味ふ」

「学校から出ればいいんじゃない」

「馬鹿じゃねえの?(笑)」

【ドン】

「なんで!?!・・・」

学校から出ようとするとかかにさえぎられる・・・

「な、なんだよこれ・・・」

「いやああ出してええ出してよ・・・」

みんなが一気にパニックになった。

そして「鬼神」はこう言った

<それでは、はじめます現在人数199人、20秒後に始まります>

みんながいつせいに逃げはじめた・・・

「くつくく・・・」

「馬鹿な奴らだ・・・」

僕はみんなに「鬼神」について知ってるだけ話した

「武器はもってなかったんだろ?」

「うん確かね・・・」

でも僕はどうしても疑問に思っていたことがある

どうやって部長を殺したのか?

それがとても気になっていた

「じゃあバリケードを作ろうぜ」

「いいなそれ」

「教室に立てこもるですね」

そのときだった・・・

< くだいま109人 >

「え!？」

僕たちは驚いた・・・

「まだ3分もたつてないよ？」

「2分で90人を殺したのか!？」

みんなの顔が青ざめ、急いで教室に入りバリケードを作った。

外を見ると「やつ」がいた。

見つからないように「やつ」見ていると

野球部の部員がバットを持って戦おうとしていた。

僕たち4人は「がんばれ」と小さく叫んだ。

だが「やつ」は黒い何かを出して、それでみんなをくし刺しにしてしまったのだ・・・

校庭が血の海と化した・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0195q/>

鬼神が殺ってくる。ゲームプレイヤーズ

2011年1月13日05時11分発行